

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成25年2月14日 (2013.2.14)

【公開番号】特開2011-170083(P2011-170083A)

【公開日】平成23年9月1日 (2011.9.1)

【年通号数】公開・登録公報2011-035

【出願番号】特願2010-33490(P2010-33490)

【国際特許分類】

G 0 3 B 21/16 (2006.01)

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

F 2 1 S 2/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 B 21/16

H 0 4 N 5/74 Z

G 0 3 B 21/14 A

G 0 3 B 21/00 D

F 2 1 S 2/00 3 7 7

【手続補正書】

【提出日】平成24年12月25日 (2012.12.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

リフレクタ 2 5 の前部には、円弧状をなす 3 つの凹部が設けられている。このリフレクタ 2 5 の前面側の開口部は、図示しない透光部材によって閉じられており、これにより、リフレクタ 2 5 の前部に、1 つの導入口 2 7 と、2 つの排出口 2 8 , 2 9 が設けられている。導入口 2 7 は、リフレクタ 2 5 の側面部に開口されていて、これと直交する方向の一方である上面部に第 1 排出口 2 8 が開口され、直交する方向の他方である下面部に第 2 排出口 2 9 が開口されている。リフレクタ 2 5 の導入口 2 7 に対向する側面部 3 1 は壁面とされて閉じられている。なお、側面部 3 1 は、凹部として残しておき、他の部材で塞ぐ構成としてもよい。この場合には、四方に凹部を設けた従来のリフレクタをそのまま用いることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

これに対して、本発明に係るプロジェクタ装置 1 の場合には、リフレクタの導入口 2 7 に対して、これと直交する方向に 2 つの排出口 2 8 , 2 9 を設ける構成としたため、排気口が排気ファン 7 の吸引による影響を受け難くすることができた。その結果、発光管 2 4 が割れて破損したとしても、ガラスの破片等が排気ファン 7 により吸引されて排出口 2 8 , 2 9 からリフレクタ 2 5 の外に出るのを容易でなくすることができる。これにより、ガラスの破片等が排気ファン 7 により吸引されて、排出口 2 8 , 2 9 からリフレクタ 2 5 の外

に排出されて、排気窓 1 6 から装置筐体 2 の外へ排出されるという不具合の発生を防止又は効果的に抑制することができる。